

女性会×JA 対話集会



JAわかやま女性会紀南地域本部は12月15日、中央営農経済センターで令和7年度「役員との対話集会」を開きました。女性会代表35人が参加し、JAの大塚敦史本部長ら役員と意見交換を行いました。そのため、一部ではございますが内容を要約してご紹介します。

農協で購入した農薬などについて、空容器の回収はされていますが、使いかけの場合の処理などはどのようにすればいいでしょうか。

空容器については、毎年12月頃に回収を行っています。使いかけの農薬などについては、2年に一度、有料ですが回収を行っています。時期等は広報等でお知らせいたしますのでご利用いただければと思います。

時代と共に働き方や色々な事情もあって仕方ないと思うのですが、以前は外務さんがたまに訪問してくれて身近に感じていましたが、今はずいぶん減ってきてだんだんとJAさんが遠い存在になっている気がします。

お会いすることが大切だと考えていますが、時代とともに働き方改革などもあり環境が変わってきています。共済部門にはなりますが、契約者の方々を中心に近況確認や請求漏れがないかなど3か年で全戸訪問を目指しています。外務担当や窓口担当の訪問やお電話などにより、JAが遠い存在にならないよう積極的に情報提供を行っていきます。

窓口で長い時間待つ場合、「お待ちせしてすみません」などプラス一言があるだけで全く違う。そういうことが少なくなってきたように思う。また、職員さんの中には声が小さくて元気がない方がいます。

思いやり・気配りといった配慮ある対応を取って、迅速に手続きをしていくようにして指導していきます。また、職員の声が小さいという指摘について、元気で明るく、笑顔で親切に対応すること、適切な身だしなみといったことは当たり前だと考えています。職員の接遇面について指導していきたいと思えます。



最近、お中元・お歳暮などギフトをいただくことがなくなり、フードドライブで商品を集めるのが困難になっている。

フードドライブについては役員と女性会で協力して、年間2回、米(愛をコメプロジェクト)については年間1回実施しています。ご意見いただいたように、お中元やお歳暮といった風習も薄れてきており、実施時期については検討していきたいと思えます。この活動は、食品ロス削減や社会福祉への貢献として行っていますので、無理のない範囲でご協力いただければと思います。

Aコープのチラシで、「半額」という表示だけでは値段が分からないので表示の仕方を変えてほしい。

精肉については「1000gあたり〇円」と表示していますが、商品によって価格がまちまちでチラシに明確な価格を記載するのが難しいため、「表示価格より半額」などという記載方法にしています。

わたしのおもい



紀南地域本部 加工部長 中平 剛史

A-1と人間力

全国的に人手不足が大きな課題になっており、農業生産現場や関連企業も状況に変わりありません。

県下の人口は、2015年(4月1日時点)に96万7121人だったのが、2025年では87万2359人(同時点)になり、10年間で9万4762人減少し、直近4年間は年1万人以上減少しています。

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所(東京都)が昨年12月22日に公表した数字によると、2050年に県下人口は63万2000人になるとの推計もあります。

このような将来予測に対して、事務作業や情報分析等は、生成AIやAIを利用することによって人手不足解消が期待されています。また農業現場では、スマート農機の実証・導入により、

重労働の軽減や効率化を目指す方向で取り組まれています。

しかし、生成AIやAI、スマート農機で対応できる作業はあるとしても、それだけでは人手不足は解消できないと思います。同時に人間一人ひとりが最大限の力を発揮し、人間でしかできない技術や知識の継承をしていかないと、いい仕事・いい農産物(商品)生産が維持できない将来が待っているのではないかと感じます。

何事にも疑問を持ち、課題検証を行い、改善していくことを大切に日々繰り返し積み重ね、また、観察力を養うことによって、最大限の力を発揮できる人間力を養うことも最新技術にプラスしていくことが必要ではないでしょうか？

生成AIやAIが人間の代わりに技術・知識の継承も行うようになるのかもしれないませんが、人間力を高める最新技術を上手に利用することができればと思います。技術・知識はどれだけ持っても重みにならないものです。何歳になっても学ぶ意欲だけは持ちたいものです。

たくさんのご来場ありがとうございました！

JAマルシェ & 女性会わいわいフェスタ

第1回

JA共済の
地域貢献活動

JAわかやま
紀南地域本部
は1月12日、白
浜町の白浜会館と町立総合体育館
で「第1回JAマルシェ&女性会わいわい
フェスタ」をJA共済協力のもと開き、
約1600人の来場者で賑わいました。
当日の様子を本誌で一部、ご紹介い
たします。

キッチンカーも多数出店！

リハビリ
健康相談

お楽しみ
抽選会

さまざまな体験・遊びに
子どもたちも大興奮

女性会員による
雑貨等販売



クイズ



コーヒーとパンでホッと一息
「わいわいカフェ」

入チゴの「まりひめ」
ミカンの「天」
地元野菜など
農産物販売

JAドライフルーツ
量り売り



紀南地域の特産物PR大使
宮本李菜さんも参加
お餅とお菓子まき



長い行列ができた大人気企画
野菜の詰め放題

わいわい

パチパチ

わわ



Mr. シャチホコさん
アンドーひであきさん
あべよしえさん
による芸人ショー



ミカン

◆剪定

すでに剪定を始めている方もいると思うが、本格的な剪定は3月・4月に行う。まず、剪定は樹の状態を確認してから行う。剪定時期が早い方が新梢の発生が見込めるため、表年樹から剪定を始め、新梢の発生が多くなるよう予備枝作りを行う。裏年樹は花が着花しにくいいため、剪定を遅く始め、軽い目の剪定で成り跡の整理を重点に行う。また、黒点病の原因となる枯れ枝は必ず除去する。

◆改植と苗木の植付け

老木園・低糖度品種・食味不良品種では、計画的に優良品種への改植をすすめよう。また、改植のタイミングは園地改造を行うチャンスでもある。重機が入る園地であれば高品質生産・作業効率の向上を目的に、園地改造にも積極的に取り組もう。

苗木の定植は、園地条件や今後の作

図1 植穴の準備

- 1) 定植1カ月前くらいまでに準備しておく。
- 2) 土壌改良資材は土とよく混和しておく。

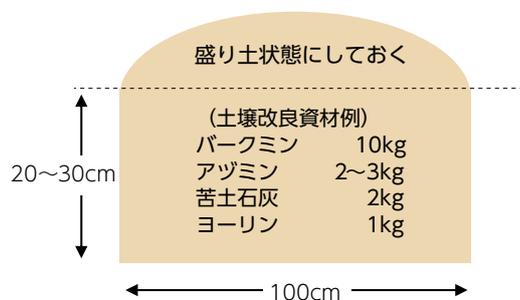
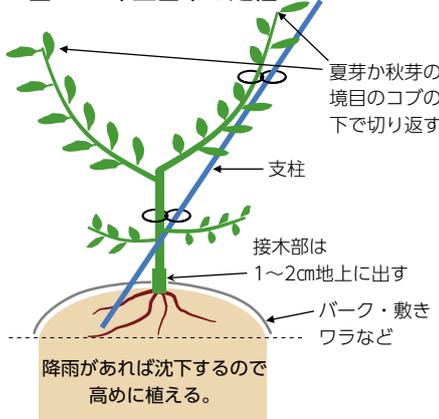


図2 2年生苗木の定植



- ① 根を乾かささない。
- ② 傷んでいる根は、ハサミで切り直し細根を多く残す。
- ③ 根を四方に広げ深植をしない。
- ④ 植付け後は、十分かん水しパーク堆肥

◆春肥

- ⑤ 地上部は根とのバランスと勢いよく芽を出させることを考え、2年生苗木では夏芽か秋芽のコブの下で強く切り返す。1年生苗木は接ぎ木部から30~50cmのところまで切る。
- ⑥ 風の強い園地などでは、苗が倒れたりぐらついたりしないよう、支柱を立てる。
- ⑦ 植付け後も乾燥時には定期的なかん水を行う等を心がける。(図2参照)

◆病害虫防除

温州みかんの春肥は、春芽の充実・開花・結実・果実肥大に必要な養分を供給するために行う。そのため、表年樹は養分が多く必要とされる。根は土の温度が12度以上になると養分吸収が盛んになるため、春肥はその前の3月上旬に施用する。しかし、本年は裏年樹が多い年である。裏年樹では春肥の施用を控えるか、少なくとも着花を促す必要がある。また、新梢の緑化促進のために、新梢発生時の葉面散布なども、着花を促すには効果的である。

◆病害虫防除

○ダニ類

昨年は秋の乾燥と高温によりハダニの発生が多い状況であった。越冬している場合も多く、春に温度が上がると多発する場合があるため注意が必要だ。

機械油乳剤は物理的な殺虫効果があり、抵抗性が付かない薬剤の一種であるため、ダニ類の基幹防除薬剤として使用したい。

昨年12月〜今年1月にかけて機械油乳剤の散布が出来ていない園地では、発芽前にアタックオイルを散布する。晴天の暖かい日を選び、丁寧に散布す

梅

3月に入ると本格的に防除が始まる。園地や品種、気象条件等によって生育や病害虫の発生状況は異なるため、生育ステージをよく観察し適期防除に努めよう。防除は地域の交配用ミツバチの巣箱が回収されているか確認をして開始しよう。

◆病害虫防除

○かじり病

前年に感染した越冬病斑が伝染源となるため、前年の発生園では特に注意が必要だ。果実への主な感染期間は3月下旬〜5月上旬となり、この期間に強風雨が多いと多発する可能性が高まる。防除は、幼果がガクからむき出る前から開始し、果実生育期にかけて行う。

○灰色かび病

落弁期から幼果期にかけて、雲天・多雨により多発する。南高に比べ、古城・小梅での発生が多い。

○黒星病

降雨が多く曇天が続く条件で発生し、多湿・風通しの悪い園地では多発する可能性がある。感染してからの潜伏期間は約30日と長くなり、5月上旬頃から

発生がみられる。防除は果実が見え始める頃から開始し、散布ムラが出ないよう樹冠内部や樹上部まで丁寧に散布する。

○アブラムシ

卵で越冬し、新葉が吸汁されると萎縮し、果実が吸汁されると変形果となる。発芽期の初期防除が重要となり、枝先まで丁寧に散布する。

○カイガラムシ類(幼虫)

年3回発生し、第1世代の幼虫の発生時期は4月中旬～5月上旬だが、近年は発生が前進傾向にある。展葉前の防除で散布ムラを無くすことができるため効果的である。また、固着性展着剤の加用により付着性が向上する。
(三栖支店営農経済・豊原晋哉)

スモモ

スモモの多くは自家不親和性の品種であるため、結実は気象条件によって左右される。結実を安定させるため、受粉樹の枝挿しや、人工授粉にも積極的に取り組もう。

◆病害虫防除

○黒斑病

モモのせん孔細菌病と同様の細菌で、風当たりの強い園地や強風雨が多い年に多発する。防除は、発芽直前から行う。

○灰星病

多雨や風通しの悪い園地で発生が多くなる。防除は発芽直前から落弁期にかけて行う。

○アブラムシ類

梅と同様に、発芽直前の初期防除を重点に行い、必要な場合は落弁期にケ

ムシ類と合わせて継続して防除する。
○カイガラムシ類(幼虫)
梅と同様に、展葉前の防除が効果的であるため、遅れないように散布する。
(三栖支店営農経済・豊原晋哉)

野菜

◆ウスイエンドウ(春採り)

○整枝

整枝により日当たりと風通しを良くすることで、病気の抑制や防除効果の向上などが期待できる。第一花下数節から発生する側枝を間引き、ソルの本数を1本当たり25～30本程度となるように行う。

○追肥

草勢が低下すると莢の肥大抑制や花数が減少するため、花の最盛期に葉色と草勢を確認しながら、尿素入NK化成2号を、1㎡当たり3kgを目安に施肥する。なお、草勢が旺盛な場合は追肥を控える。

○病害虫防除

主な病害虫は次のとおり。防除薬剤は営農経済担当に相談する。

●ナモグリバエ

気温が高くなると、世代交代のサイクルが早くなるため注意する。発生初期から薬剤をローテーションして防除する。

●うどんこ病

発生してからでは防除が困難となるため、予防散布に努める。ただし、収穫直前に行う場合は葉斑に注意する。

●褐紋・褐斑病

湿地ほど被害が多くなるため、降雨前

または降雨後の予防散布が重要となる。
◆一寸ソラマメ
○追肥(2回目)
着莢肥大期に固形30号プラスを、1㎡当たり2kgを目安に施肥する。

○摘心(2回目)

葉莖の充実とサヤの肥大を促すため、15節前後で主枝の先端を摘芯する。

○病害虫防除

●赤色斑点病
茎・葉・莢に発生し、多発すると莢の品質低下や草勢の低下に繋がる。春先から発生するため排水を良好にする。防除薬剤は営農経済担当に相談する。

◆ニンニク

3月は球根肥大期であり、この時期の乾燥には十分注意する。

○裂球防止

土壌乾燥後の多雨(水分過多)により裂球しやすい。乾燥が続けば適宜かん水すると共に、突然の多雨に備えた排水路の整備も行う。また球根肥大期の追肥は、裂球を招き肥大を阻害するため行わない。

○病害虫防除

●春腐病
発生すると株が腐敗し減収に繋がる。Zボルドー(50倍)や、ICボルドー66D(50倍)を定期的に散布する。ただしニンニクの芽を出荷する場合は、ICボルドー66D(100倍 ※希釈倍数注意)で防除する。

◆エダマメ

○播種

10㎡当たり5kg程度(約1000粒)の種子を準備する。発芽適温は25度前後で、

15度以下になると発芽が遅れ発芽率も低下するため、遅霜の可能性がある3月播種ではトンネル栽培とし、露地栽培は霜の心配がなくなる時期から播種する。黒マルチは135cmを使用し、株間24cm、2条蒔き、1穴あたり2粒を播種する。なお、発芽までは十分な水分が必要である。

花き

◆病害虫防除

気温の上昇にともない各種病害虫が増加する時期のため、需要期に向けて病害虫発生に注意する。病害は発生前に予防散布し、害虫は発生初期の防除に努める。同系統の薬剤を連続で使用せずに防除を行う。また、露地・トンネル栽培では多雨に備え排水路を整備しておく。

この時期は、アブラムシ、ハダニ、アザミウマ類、灰色かび病等の防除を行う。防除薬剤については営農経済担当に相談する。
(営農課・濱本和美)

※みかん、中晩柑、梅、スモモ、水稲の防除薬剤や施肥肥料は、JAWかやま紀南地域本部令和8年栽培暦を確認ください。

令和8年
3月より
新設

林野火災警報 ・林野火災注意報

近年、日本国内や世界各地で相次いで発生している山火事は、田辺市消防本部管内においても他人事ではありません。

また、林野火災の出火原因となる「たき火」については、当本部において10年連続で火災原因の第1位となっています。

空気が乾燥し、風が強い日に、一度、山火事が起これば、その被害は広範囲となり、消火作業が極めて困難で、消防署や消防団だけでは手に負えなくなります。

まずは、山火事を発生させないことが最も重要となることから、令和8年3月より「**林野火災警報・林野火災注意報**」を発令し、住民の方々に火事が発生しやすい気象状況となっていることをお知らせし、火の取扱いを制限していただくこととなります。

発令範囲について、田辺市消防本部では行政区単位となります。

発令時の制限事項

火災予防のため林野火災注意報発令時には、火気の使用について以下の項目が努力義務となります。

さらに危険な状況になり、林野火災警報が発令された際には義務となります。

- (1) 山林、原野等において火入れをしないこと。
- (2) 花火を消費しないこと。
- (3) 屋外において火遊び又はたき火をしないこと。
- (4) 屋外においては、引火性又は爆発性の物品その他の可燃物の付近で喫煙をしないこと。
- (5) 山林、原野等の場所で、火災が発生するおそれが大であると認め、市長が指定した区域内において、喫煙をしないこと。
- (6) 残火(たばこの吸殻を含む)、火を使用する設備から取り出した灰又は火粉を始末すること。

発令時には

防災行政無線による広報(警報時のみ)、SNSへの掲載、ホームページへの掲載、地上デジタル放送のデータ放送(テレビ和歌山データ放送)などを行います。

ご理解とご協力よろしく申し上げます。

田辺市消防本部



出前授業を行う太田複合外務

JAすさみ支店は1月19日、周参見小学校の6年生を対象にした出前授業「お金の勉強会」(第2回目)を行い、太田修司複合外務が投資を中心に説明しました。令和7年度は全2回となっており、第1回目は12月22日に実施しました。

周参見小で出前授業

「お金の勉強会」を実施



「越冬木熟みかん」PR

1月以降も出荷が続いた早生温州の

産地の旬をマスメディアが報道

太田複合外務は時間を勉強や体験に使って「才能」に投資しておくとして、将来その才能が「お金」として返ってくるとして、今一番大切な投資先は自分自身であると伝えました。余った時間は、株価の動きから応援したい会社を探そうと気になる会社を挙げてもらい、インターネットで検索し株価の動きを実際に見てもらいました。皆の予想を裏切る動きが意外に多く、児童からは次々と会社名が挙がり、気が付けば皆席を離れてモニターの周りに集まっていました。



取材に応じる鳥山さん

「越冬木熟みかん」について取材しようと、田辺市芳養町の鳥山晃宏さんの園地に1月6日、テレビなど報道陣が訪れました。中生・晩生としてでなく早生温州として年明け以降も出荷される産地は全国的にみても珍しく、JAわかやまにおいても紀南地域が唯一です。田辺市芳養町

3/19 JA総合相談会

(弁護士・税理士による無料相談会)

- 相談会場 紀南地域本部
- 相談時間 9時～12時
- 問合せ先 金融部(☎0739-23-3516)

資格認証試験 年賀式

合格者表彰も

1/5

合格者に認証証書を授与する大炭本部長



紀南地域本部は1月5日に年賀式を行い、管理職が出席しました。

大炭敦史本部長からは新年に向けた訓示とともに、資格認証試験に合格した職員に対する資格認証証書の授与が行われました。

で栽培された越冬木熟みかんはJAの芳養谷選果場を通じて東北・関東・中京地方へ出荷されており、鳥山さんは「1年かけて一生懸命作っているの、皆さんに『おいしい』と喜んでもらえることが一番の励みになります」と話しました。

オンラインショップ



木熟デコポン

約5Kg
¥6,500～

不知火の中で、糖度・酸度の一定基準を満たしたものが「デコポン(R)」です。木熟のフレッシュな味わいが人気です。

ご注文はこちら



ふれあい広場



すくすく
Memory

田辺市秋津川

やまさき てんき
山崎 天喜くん(4カ月)

「はらぺこあおむし」がお気に入り / たくさんのお魚も見てきたよ

“天からの喜び”という意味が名前に込められているという天喜くん。最近をよく笑うようになってきたといい、絵本を読んであげると“キャッキョ”とうれしそうに反応してくれるんだって。お気に入りの絵本は「はらぺこあおむし」みたいだよ。

家族みなでお出かけすると、出会うものすべてが新鮮でワクワクが止まらない様子。すさみ町の「エビとカニの水族館」でたくさんのお魚を見れたことも楽しい思い出になったかな。

ご家族から一言 自分のしたいことを見つけ、のびのびと元気に育ってね。

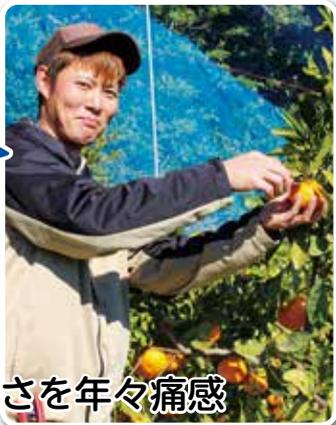
生産者紹介

今月のきなん産地人

田辺市芳養町

岸本 拓朗さん

ミカン栽培の難しさを年々痛感



父から経営移譲され2年目。ミカンを中心に栽培していますが、温暖化の影響でミカン栽培の難しさを年々痛感させられる日々です。今後は極早生品種にも力を入れていこうと考えており、今は少しずつ栽培を進めているところですよ。

また青年部にも加入しており、活動先の芳養支部には現在13人の部員が所属しています。部員同士のコミュニケーションが活発で絆も強く、梅干したるの盗難防止にむけた巡回パトロールや、近隣の農家仲間から依頼された作業の一部を請け負うなど、有志活動も盛んです。

本年はさらに収穫量を増やせるよう、これまで以上に計画的な行動に努めたいです。



ENJOY
セカンド
ライフ

田辺市北新町

つばい けいた
坪井 慶太さん

クラフトビールを楽しんでもらいたい ゲストハウス兼ねた店をオープン

クラフトビールをもっと皆さんに楽しんでもらいたいと昨年6月、ゲストハウスを兼ねた店「Beer&Guesthouse Nagi」をオープンしました。準備段階での苦労もありましたが、今ではありがたいことに徐々に常連さんも増えてきました。

クラフトビールは白浜町の「ナギサビール」、田辺市の「ボイジャーブルーイング」、有田川町の「ノムクラフト」など地元のものも常時楽しめ、食事についてもなるべく地元の食材を使ったメニューの提供に努めています。

「Beerフェス」の開催も計画中で、田辺でクラフトビールを飲む文化が定着してくればうれしいです。



地域本部の JA 職員です



総務部 人事課

かさねいし たかし
重石 崇さん

健康のため細々とゴルフと農業をしており、梅の剪定の大変さを改めて感じています。今後も健康に気を付けて頑張りたいです。

営農部 営農課

はまもと かずみ
濱本 和美さん

新しいことを覚えられたときに「次も頑張ろう」という気持ちになります。いつか熊野古道を歩けるよう、まずは少しずつ運動を始めようと思います。

